

---

第5回 日野町議会定例会会議録 (第3日)

令和4年6月15日 (水曜日)

---

議事日程

令和4年6月15日 午前10時開議

日程第1 一般質問

通告順番7 1番 中山 法貴 議員

通告順番8 9番 竹永 明文 議員

---

本日の会議に付した事件

日程第1 一般質問

通告順番7 1番 中山 法貴 議員

通告順番8 9番 竹永 明文 議員

---

出席議員 (10名)

1番 中山 法 貴

2番 梅 林 敏 彦

3番 金 川 守 仁

4番 松 尾 信 孝

5番 中 原 信 男

6番 松 本 利 秋

7番 安 達 幸 博

8番 佐々木 求

9番 竹 永 明 文

10番 小 谷 博 徳

---

欠席議員 (なし)

---

欠 員 (なし)

---

事務局出席職員職氏名

局長 ————— 飛 田 朋 伸 書記 ————— 瀬 崎 将 太

書記 ————— 入 澤 眞 人

---

### 説明のため出席した者の職氏名

町長	—————	埴田淳一	副町長	—————	音田守
教育長	—————	生田求	総務課長	—————	景山政之
住民課長兼会計管理者	——	荒木憲男	企画政策課長	—————	神崎猛
健康福祉課長	—————	住田秀樹	産業振興課長	—————	五百川和久
建設水道課長	—————	音田雄一郎	教育課長	—————	遠藤律子

---

### 午前10時00分開議

○議長（小谷 博徳君） おはようございます。

ただいまの出席議員数は10人であり、定足数に達していますので、これより令和4年第5回日野町議会定例会3日目を開会いたします。

本日の定例会は、マスク着用や換気を行うなど、新型コロナウイルス感染症対策を講じて進めます。

出席議員には、タブレット端末機の使用を例規確認のため許可しておりますので、御了承ください。

本日の議事日程は、お手元に配付いたしました日程のとおりであります。

---

#### 日程第1 一般質問

○議長（小谷 博徳君） 日程第1、一般質問を行います。

昨日に引き続き、2名の議員の一般質問を行います。

通告順に発言を許可いたします。

1番、中山法貴議員の一般質問を許します。

1番、中山法貴議員。

○議員（1番 中山 法貴君） 始めます。まず初めに、私は町民が政治に参加する、町民が主体となる政治が理想だと思っております。日野町がそこに向かうように、今回質問をいたします。

質問内容、町民の声の把握について。町の主役は町民です。町は町民の声を聞き、政治を行うことが必要です。町長は3年前から住民アンケートについて、検討、研究すると述べられており、昨年には、住民の意見を聞くには住民に直接会って会話するのが最良。しかしコロナ禍の状況では、その機会は大きく減っている、住民アンケートは取るべき手段かもしれないとも述べられました。しかし、いまだに住民の意見を聞く住民アンケートは実施されていません。人口2,8

86人だからこそ全町民の声を聞くことができ、全町民参加型の町政ができる、それが我が日野町です。

そこで質問いたします。1、町長に質問いたします。現在、どのような方法で町民の声を集めていますか。

2、3月議会の中で、町長は町民との座談会を希望されていましたが、町民との座談会はどれくらい開催されましたか。

3、3年前、町民の意見や町政の評価を聞くためのアンケートについて、検討、研究すると町長は述べられました。あれから3年がたちましたが、3年間でどのような検討、研究をされて、どのような研究結果が出ましたか。

4つ目、交通問題、買物支援、学校跡地利用、銀行跡地の問題など、町民の意見をまだまだ多く聞く必要があります。住民の声を聞くのに有効な手段である住民アンケートをいまだに実施しないのはなぜですか。いつ住民アンケートを実施するのでしょうか。

○議長（小谷 博徳君） 埴田町長。

○町長（埴田 淳一君） 1番、中山議員さんの御質問にお答えします。

まず初めに、どのような手法で町民の声を集めているのかとのお尋ねでございます。町民の方々がこの町で住まれる中で、日頃感じておられる思いや課題など、様々な手法で声を聞かせていただくことは重要だと考えております。町民の方々の声を集める手法といたしまして、直近では日野町立学校跡地利用住民説明会など、行政施策の説明会で御意見をいただいたり、菅福小さな拠点づくりフェスタなどのイベントや黒坂フェスタなどの地域が主催されるイベントに参加させていただいた際にお話をしたり、自治会担当職員が自治会長宅へお邪魔した際に御意見をいただいたりしております。

行政懇談会につきましても、声を聞かせていただく有効な手法ではありますが、ここ数年、新型コロナウイルスの影響もあり、開催には至っておりません。また、アンケートにつきましても、移動販売についてなど、テーマを絞った方法で行ったところでございます。

次に、町民との座談会はどれくらい開催されたかとお尋ねでございます。座談会、言い換えれば行政懇談会の開催についてでございますが、先ほども申し述べましたとおり、ここ数年、新型コロナウイルスの影響もあり、行政懇談会の開催には至っておりません。今年こそはと実施を目指した自治会長会議でございましたが、残念ながら、感染拡大防止の観点から、対面での開催を断念し、資料を自治会に送らせていただきました。なお、その資料の項目の中に行政懇談会の開催について依頼させていただいており、今後、新型コロナウイルス感染症が落ち着き、感染へ

の不安が払拭できるような状況になるなど、条件が整いましたら、開催してまいりたいと考えております。

さらに、町民アンケートについて、検討、研究をするということだったけども、どのような研究結果であったかとお尋ねでございます。町政全般についてのお尋ねするアンケートも有効ではあると思っておりますが、現時点では、ある程度テーマを絞ったほうがより具体的な意見をお聞きできるのではないかなと思っております。最近の例では、移動販売について、利用者のアンケートを取らせていただき、その結果は議員の皆様にもお示ししているところでございます。また、自治会長を対象に空き家についてのアンケートも現在実施しているところで、広報ひの6月号に調査結果を掲載することとしております。町民の皆様生の声を聞くことを大切に、テーマによっては具体的にアンケートを実施するという手法を活用しながら、行政運営に反映してまいりたいと思います。

最後に、いつ住民アンケートを実施するかとお尋ねでございます。先ほど申し述べましたように、分野ごとにアンケートを実施しております。今後もテーマを絞りながら、アンケートを実施してまいりたいと思います。以上です。

○議長（小谷 博徳君） 1番、中山法貴議員。

○議員（1番 中山 法貴君） では、追加の質問をいたします。私は先ほど日野町の主役は日野町民というような内容のことを言いましたが、これについて、町長はいかがですか。町長もそのとおりだと思いますか。まずこれを聞きたいと思えます。

○議長（小谷 博徳君） 埴田町長。

○町長（埴田 淳一君） 基礎自治体、住民あってこそその自治体でございます。何か違う回答が欲しいのかなという感じもあるんですけども……。

○議員（1番 中山 法貴君） そのとおりって言ってもらえたらいいですが。

○町長（埴田 淳一君） いや、住民が主役でございます。住民の方々。

○議長（小谷 博徳君） 1番、中山法貴議員。

○議員（1番 中山 法貴君） では、その主役の町民にできるだけたくさん意見を言ってもらいたい、できるだけたくさん意見を聞きたい、それを町政に生かしたいと考えてらっしゃいますか。

○議長（小谷 博徳君） 埴田町長。

○町長（埴田 淳一君） 議員さんおっしゃられるように、いろんな御意見を住民の方からお伺いすることっていうのは本当に大切なことであろうと思えます。どういんですかね、できるだけ

私も外を歩いたり、いろんなどころに出かけていったりして、住民の方にお声をかけたり、声をかけてもらったりして、いろんなお話を聞くとか、させていただくってというような機会はどんどんつくっていきたいなと思います。

○議長（小谷 博徳君） 1番、中山法貴議員。

○議員（1番 中山 法貴君） では、どのような方法で町民の声を集めているかというところにつきまして、町長は行政の説明会や地域イベントに行って町民の意見を聞いているとのことですが、それだとイベントの参加者、本当に少ない少人数の方とかしか話せない、少人数の意見しか聞けませんが、これでは全然足りないな、もっともっと町民の意見を聞きたいなと思いますか。もう十分だと思いますか。

○議長（小谷 博徳君） 埴田町長。

○町長（埴田 淳一君） だんだん誘導尋問になってきてるなって思いますけれども、ちょっとどういうんですか、考えてみてくださいって、直接お伺いするって、これは本当、大切なことですし、今、私どもは間接民主主義ってということで、住民の代表の方と今、お話をさせていただいております。そういう面でも、いろんな住民の御意見を聞く機会、直接でなくても、間接でも聞かせていただく、そういう機会は随分あるのかなと思っております。

○議長（小谷 博徳君） 1番、中山法貴議員。

○議員（1番 中山 法貴君） 現状で足りていると思うか、足りてないと思うかという質問なので、足りていない、足りているというふうに答えていただければと思います。

○議長（小谷 博徳君） 埴田町長。

○町長（埴田 淳一君） 本間のほうでも申し述べましたけども、このコロナウイルス感染症拡大の中で、ここ3年ぐらい、なかなか皆さん、例えば従来やってた行政懇談会であったり、2月ぐらいにありますよね、地域座談会、そういうのが開催できない、そういう機会を捉まえて、いろんなお話をしたり、聞いたりしてたんですけど、そういうものがないという状況を踏まえれば、まだまだ十分ではない状況が続いてるっていうふうに認識しております。

○議長（小谷 博徳君） 1番、中山法貴議員。

○議員（1番 中山 法貴君） ですね、やはりこのコロナの状況もあって、なかなか十分意見を、足りてないと思います。ですので、もっと町民の意見をいろんな手段で聞かないといけないと思います。

町民の声を集める手段としまして、以前は提案箱、目安箱があったんですが、これが撤去されました。そのことについて、以前質問したときに、総務課のほうから提案箱撤去後は意見を募る

のに町のホームページのほうで町のアドレスを公開している、つまり、メールで意見を集めているとのことでしたが、このメールでの意見は来ていますか。

○議長（小谷 博徳君） 景山総務課長。

○総務課長（景山 政之君） 提案箱を廃止した後でございますが、町のホームページ、そちらに御意見いただけるような形になっております。ちょっと現時点でどういった意見があるか、詳細は確認しておりませんが、分かりませんが、あまり実際にはそちらのほうに多くの意見は寄せられていないというふうに認識しております。

○議長（小谷 博徳君） 1番、中山法貴議員。

○議員（1番 中山 法貴君） メールではなかなか意見が来ていないということで、やはり意見を募るやり方を考えていかないといけないと思います。

次の項目で、町長は座談会を3月議会の中で希望するというをおっしゃられていましたが、というところです。3月議会で、町長は座談会に出かけていきたい、自治会等から声がかかれば出かけるとおっしゃいました。その後、自治会等から声はかかりましたか。

○議長（小谷 博徳君） 埴田町長。

○町長（埴田 淳一君） これも本問のほうでお答えしたんですけれども、今年度、5月ぐらいに予定していた自治会長会議さえも第六波の新型コロナウイルス、オミクロンの関係で中止せざるを得ない、そういった状況、環境でございましたので、出かける機会はございませんでした。声はかかっておりません。

○議員（1番 中山 法貴君） 声はかかってない。

○町長（埴田 淳一君） はい。

○議長（小谷 博徳君） 1番、中山法貴議員。

○議員（1番 中山 法貴君） これも声がなかなかかかっていないということで、募集のやり方なども、募集ですね、やり方なども、声をかけていただけるようなやり方なども考えていかないといけないと思います。これも検討、研究をしていただきたいと思います。

先ほどから出てます、コロナの影響で座談会、懇談会は開催していないとのことですが、行政も民間も昨今では会場に適切なコロナ対策を施して、集会やイベントなど、全国的に開催されております。集会におけるコロナ対策のこのノウハウは行政が一番詳しく持っていると思います、ノウハウ。ですので、適切なコロナ対策をすれば開催はできるものだと思います。ですので、それで開催できないということなく開催していただきたいと思います。

行政懇談会というと、ちょっと町民の皆さんも堅苦しいんじゃないかと、構えてしまうかもし

れないので、堅いものではなく、先ほどから言ってます座談会、座談会のような意見交換会、話しましょうというのでもいいと思います。

この町民との座談会に関しましてですが、5月に黒坂公民館で「ここから始まる黒坂の元気づくり」という黒坂フェスタのイベントが開催されました。これは町民の有志が主催された地域活性化を狙ったイベントです。このイベントでは、地域活性化に詳しい方の講演がありまして、その後に、チラシにも書かれてたんですけど、住民の皆さんで気軽な意見交換、意見交換会というのがありました。埴田町長、この元気づくりのイベントに来られてたんですけど、意見交換会の前に帰ってしまったんですよ。町民の意見を聞く、まさに意見交換の場だったんですけど、絶好の場だったんですけど、なぜ参加されずに帰ってしまったんでしょうか。

○議長（小谷 博徳君） 埴田町長。

○町長（埴田 淳一君） 当日、たしか鹿野のまちづくりの方が御講演されたんですけど。ちょっと所用がございましたんで、講演だけはお伺いして、その前後、参加されてる方とちょっと会話をさせていただいて、帰りました。所用がございました。

○議長（小谷 博徳君） 1番、中山法貴議員。

○議員（1番 中山 法貴君） 町民と直接話したい、話したいと以前からおっしゃられているので、こういう絶好の意見交換会の場ではぜひ最優先事項として参加していただきたいんですけど、所用があったと。その内容は聞きませんが、忙しかったんだと。ぜひ参加していただきたいかったと思います。

また、6月に菅福の小さな拠点づくりフェスタという、これも地域の方々が集まる地域活性化イベントがありました。ここに参加した町民の方から、ちょっと私に、町長は最初の挨拶だけして帰ったと。座談会に出かけたいとあれほど言っていたのに、町民と話さずに帰ってしまった、けしからんという話を聞いたんですよ、これ本当ですか。

○議長（小谷 博徳君） 埴田町長。

○町長（埴田 淳一君） ちょっと違うんじゃないかなと思います。御挨拶をさせていただきました。そして、最初、島根の中山間の研究員さん、東さんでしたっけ、おいでになっておられて、そのお話を聞いて、その日はたしか10時からの黒坂のイベントのほうにも参加させていただいて、また昼から、あの日は3つか4ついろんな催物っていうか、出かけないといけないのがありましたので、途中中座したっていうのは確かでございますけれども、挨拶だけして帰ったというのは、ちょっと誤認だと思います。以上です。

○議長（小谷 博徳君） 1番、中山法貴議員。

○議員（1番 中山 法貴君） その後、黒坂のフリーマーケット、我楽多市があったということでそちらに行かれたということなのですが、これはチラシにもありまして、午後3時までやっているイベントでしたので、そんなに急ぐ必要はなかったのではないかと思います、町長なりの考えがあったんだと思います。

以前から行われてます、菅福地区の共生の里事業ありますね。これも町長、いらっしゃるんですが、これ町長すぐ帰ってしまうというふうに、ぶっちゃけ有名になっています、有名になります。やはりもっと多くの町民の方とイベントにも滞在して、参加者として参加していただいて、一参加者として。共に汗を流したりしながら、話してもらえることを期待します。どんどんこういうのに参加して、町民と意見交換をしていただきたいと思います。

次の質問に行きます。3年前から町長がおっしゃられておりますアンケートについて、検討、研究するという回答いただきましたが、質問はどのような検討、研究をして、どのような研究結果が出たかという質問ですので、3年間かけて、誰と誰とこれこれこういう研究をしたというふうに答えていただきたい。そして、3年間の研究でこれこれこういう研究データが出たというふうに答えていただきたいんですが、お願いします。

○議長（小谷 博徳君） 埴田町長。

○町長（埴田 淳一君） 議員さんから住民アンケートの提案、これ2回ぐらいあったんですかね、昨年の6月議会、それからその前ぐらいで。住民アンケート、議員さんのおっしゃられる住民アンケートっていうのは、全数調査みたいな、住民っていうか、町民の方が主役だからっていうことで、全町民を対象にっていうのが、どうもアンケート形式の趣旨のようにお伺いしました。そういったこともありますし、また、6月のときに、いわゆる4年の成果とかそういうようなものを、満足度っていうんですか、そういうのをやってみたらっていうようなお話もいただいたところだったと思います。ただ、誰と協議したかって、要は庁舎内ですね、庁舎内の主要な課長、全部の課長だったと思います、主要な課長といろいろ、どういうテーマ、どういう目的でどういうアンケートがいいのかっていうようなことを検討させていただいたり、またアンケートの時期、そういったこともいろいろ検討させていただいたところです。議員さん御提案のものにあっては、どういうんですか、私の評価っていう部分については、その何か月後に選挙っていうのもございましたので、今はやるべき時期ではないなっていうことで、そういう時期を見るっていうのもやっぱり必要かなと思います。いろんなテーマがあります、アンケートにはやっぱり目的がある、そして、その目的のためにどういう情報を集める、どういうものを集めないといけないか、アンケート項目、質問の内容、それが恣意的にならないように、いろんなことを検討させていただ



たっていることをごさいます。

○議長（小谷 博徳君） 1番、中山法貴議員。

○議員（1番 中山 法貴君） どのような研究をされましたかという質問に対しての答えは、まとめると、庁舎内で検討したという答えでした。3年間という期間が、検討、研究のやり方として3年間の、それだけかなという感想を持ちましたが、それだけだということだそうです。

次の質問に参ります。交通問題、町営交通や買物支援、学校跡地利用、銀行跡地の問題など、こういった問題、意見、アイデアは多ければ多いほどいいと思います。町民の意見をまだまだ多く聞く必要があると思っております。

私がアンケート、アンケートと、なぜアンケートにこだわっているかといいますと、町長は対面で聞くのが、直接話を聞くのがいいとおっしゃられておまして、それももちろん大切です。大変大切なものだと思いますが、対面だけに、対面だけですと、積極的に意見を言う人の声しか聞けないと、これだと、いわゆる声のでかい人の意見が通るという状態になりやすい。しかし、これアンケートでしたら、面と向かっては意見しづらいという人からも意見が聞けるんですよ。特に、批判意見なんかはやっぱり面と向かっては言いにくい。こういった批判意見も大事です、批判意見も聞くことができます。先ほど私が話しました、町長がイベント後すぐ帰ってしまっけしからんと言った方も、恐らく町長には面と向かって言われてないと思います。やはりこういう批判意見って言いにくいんですよ。ですので、本当に全町民から多くの意見を聞きたいなら、どんどんどんどんアンケートをやるべきだと思います。

このアンケートですが、このたびの町長からテーマを絞ったアンケートを今後も実施していくという、前向きな回答をいただきました。ですので、やっていただけるということを期待しております。ただ、これ一言言いますと、テーマを絞るということに一言言いますと、テーマを絞ったアンケートもやればいいと思います。テーマを広げたものもやればいいと思います。どっちかしかやっちゃいけないということはないんですよ。どっちもやればいいんですよ。両方試しながら、どんどんどんどんやっていければいい、どんどんどんどん町民のアンケート、聞けばいい、町民の意見を聞けばいいと思います。これに関していかがでしょうか、両方やっていければいいと。

○議長（小谷 博徳君） 埴田町長。

○町長（埴田 淳一君） 考え方はどういうんですか、原理原則の考え方は議員さんおっしゃられるとおりの部分が随分あると思います。ただ、私、アンケートを回答していただける町民の方目線に立って、何でもかんでも全部アンケートとか、物すごい間口を広くしたアンケート、住民の方、何だこりゃってというようなことにならないように、やはりある程度、この単一、モノって

うか、シンプルとかそういうのじゃないんですけども、ある程度テーマを絞ったもののほうが回答していただきやすいんじゃないかなっていう、そういう配慮っていうんですか、思いはあります。ただ、これしかしないとか、これだけだよじゃないっていうか、そういう思いも持っております。あまり一遍に何十枚ものアンケート用紙が来ると、恐らく開いてみるのも大変で、アンケート答えようかっていう気になれないんじゃないかなっていう、そういう気遣いもしております。以上です。

○議長（小谷 博徳君） 1番、中山法貴議員。

○議員（1番 中山 法貴君） アンケートはやっていきたいと、ただ、やり方については、いろいろ検討しているということだというふうに伺いました。私が考えるには、この住民アンケート、単発で終わらない、例えば何々についてアンケートした、来ました、終わり、一応分析して終わりではなくて、単発で終わらずに、定期的に、もうシステムでやっていくというのはいかがでしょうか。月に1回、もしくは2か月に1回のペースで、もうやると決めるんですよ。やると決めて実施していくと。そうすれば、たくさんの意見を定期的に聞けます。町長はもう一番初めにたくさんの意見欲しいとおっしゃってますので、これをやると物すごい数の意見が聞けます。これ、もし日野町は毎月町民に意見を聞くアンケートを実施しているぞと、そういうことになれば、もう大評判ですよ。町内だけじゃないです、町外からも注目されます。あそこの町はすごいぞと。町民の意見を日本一聞く町じゃないかと、そういう評判にもなるかと思います。

全町民アンケートができるのは、人口2,886人の町の特権なんですね。これ、100万人都市じゃ到底できない、10万人都市でもできない、1万人都市でも難しい、2,886人ですから、全町アンケートができてしまうという、これが小さな町が大きな都市より優れている最大の利点の一つだと思います。これを売りにすれば、田舎に移住を検討されてる方に日野町をアピールすることができると思います。日野町は日本一町民の意見聞くぞと。やりませんか、定期的な、何か月に1回取るという定期的住民アンケート。

○議長（小谷 博徳君） 塚田町長。

○町長（塚田 淳一君） 一つの面白い提案かもしれませんが、よく考えていただきたいと思えますけれども、先ほど議員さんもおっしゃいましたように、住民の意見とかそういう聞く窓口は、1か月に1回とかそういうアンケート以上に毎日受け付けてるんですよ。それは全国の自治体でも全部やってると思います。今日しかアンケート、このアンケートしか意見をもらえないよとかいうような、そういうことではないんです。いつでも住民の方の御意見をいただく、そういう体制でございますので、あまり定期的にアンケートっていうのは、一つのアイデアかもしれませんが

れども、どうなのかなと思います。

○議長（小谷 博徳君） 1番、中山法貴議員。

○議員（1番 中山 法貴君） いつでも意見受けてますよと、メールアドレス出してますよと、ホームページに。でも、実際来てません、来てませんという回答ありましたね。じゃあ、窓口に来て、町長室に来て話せばいいじゃないか、これも先ほど私言いましたように、対面ではなかなか言いにくいこともあります。ですので、やはりやり方をいろいろ考えないといけない。やはり私はアンケートが有効なものだと思います。そして、本当に多くの住民の方の、多くのっていうか、もう全町民ですね、全町民の意見を聞きたいのなら、やはりアンケート、しかも単発で終わることなく定期的にやれば、先ほど言いましたように、すごい町だと、日本一の町になると思っております。ぜひ検討していただきたいと思います。

これ、やれない、やらないというか、やれない理由っていうのはありますか。例えばお金が膨大にかかるとか、そういうことを懸念されていたりとかするのでしょうか。

○議長（小谷 博徳君） 埴田町長。

○町長（埴田 淳一君） やれない理由っていうか、今、それも一つのアイデアだっていうお話をしたんですけど、あまり感度よく捉えられなかったのは、確かにお金はかかると思いますよね、恐らく郵送なのかなって思いますし、メールっていうか、スマホっていうか、そういうのもでできるかなと思います。それとあと、どういうんですか、途中でも申しましたが、アンケートする側とアンケートをされる側の手間ですね。する側の手間は、何回も毎月繰り返すんだったら、定型的だからいいのかもしれませんが、アンケート用紙を受け取られた住民の方、どういうふうにして受け取られるのか、また、また来たかとか、いろんな、どういうんですか、その辺がちょっと分かりかねるっていうのが今考えてる状況です。以上です。

○議長（小谷 博徳君） 1番、中山法貴議員。

○議員（1番 中山 法貴君） そうなんですよ、分かりかねるんですよ。分かりかねるときは聞きゃあいいんですよ、アンケートで。アンケートやりましょう。御検討よろしくお願いします。

では、直近の問題についてちょっと聞きたいと思います。義務教育学校の教育課程や学校跡地についての、ちょっとテーマの一つとなっていますが、これは今後のアンケートをする予定はありますか。

○議長（小谷 博徳君） 埴田町長。

○町長（埴田 淳一君） そういう予定はございません。説明会をさせていただきました。また、説明会の折に、御意見等があればぜひお寄せくださいっていうような告知もさせていただきました。

た。以上です。

○議長（小谷 博徳君） 1番、中山法貴議員。

○議員（1番 中山 法貴君） そういう告知があったんですが、結局はメールは来てないということなので、やはりやり方を考えたほうがいいかと思います。

ほかにも銀行跡地の問題、今回一般質問でも出ました交通の問題、買物支援問題、ごみ収集体制について、物価高について、SDGsについて、福祉について、医療について、廃棄物処理施設について、民生委員について、鳥獣害対策について、地域おこし協力隊について、子育てについて、これらもやはり2,886人の知恵者からたくさん意見をいただきたいと。やはりそれには全住民アンケートをしていただきたいと思います。やはりデータなしで事業を進めようとする……。

○議長（小谷 博徳君） 質問をまとめてください。

○議員（1番 中山 法貴君） はい。データなしで事業を進めようすると、結局、先ほど恐らくとおっしゃられましたが、やはり想像でやることになってしまうんですね。どういうことに困ってらっしゃるかのデータを取っていかなければいけないので、これら、今言った一般質問で出たテーマも全部できるだけアンケートを実施していただきたいんですが、いかがですか。

○議長（小谷 博徳君） 埴田町長。

○町長（埴田 淳一君） アンケートでございますけども、最初申しましたように、目的とかどういいう目的設定、それからどういう場面で、いわゆる計画をつくる場面、それから計画をチェックする場面、いろんな場面で有効な手法という認識はございます。以上です。

○議員（1番 中山 法貴君） 以上で質問を終わります。

○議長（小谷 博徳君） 1番、中山法貴議員の一般質問を終わります。

---

○議長（小谷 博徳君） 次に、9番、竹永明文議員の一般質問を許します。

9番、竹永明文議員。

○議員（9番 竹永 明文君） それでは、一般質問を始めたいと思います。

私は、今回の一般質問に若者・子供が住む未来につながる持続可能なまちづくりについて質問したいと思います。町長は2期目の施政方針で、町を維持していくために、一人でも多くの若者が住み、子供が誕生し、地域で子供を育て、地域を愛し、支えていく人材を育成するサイクルを持続するように取組を進めると述べておられますが、具体的に次の2点について質問したいと思います。

1点目、町長就任以来、若者定住と子供政策に積極的に取り組んでいますが、成果と課題を含め、現状をどのように認識されているかお伺いします。

2点目、義務教育学校開校後の放課後子ども教室、夏休み、冬休み、春休みも含めての運営方針についてお伺いしたいと思います。

○議長（小谷 博徳君） 埴田町長。

○町長（埴田 淳一君） 9番、竹永議員さんからの御質問にお答えします。

初めに、若者定住と子育て施策の成果についてのお尋ねでございます。第2次きりり日野町創生戦略の項目を例えにお答えさせていただきます。

令和2年度より開始しました第2次きりり日野町創生戦略では、若者定住に該当する分野として、集落機能の維持、移住定住を設定しております。こちらは移住者、若年世帯などへの住居整備に対する行政支援や、空き家利活用、町営住宅の建設などを具体的施策として掲げており、5年間で60人の若年世帯移住者の獲得を目標としております。令和2年度は3世帯8人、令和3年度は3世帯13人が移住されております。

次に、子育て政策におきましては、子育て、幼児教育の分野を設定しており、子供の成長段階に応じたお祝い金などの贈呈、子供の健全育成、安心して子育てできる環境づくりなどを具体的な施策とし、令和6年度の義務教育学校入学者数15名以上を目標として掲げております。令和2年度は15名、令和3年度は13名、令和4年度は11名でございました。まだまだ成果と言えるものではないかもしれませんが、着実に若者、子供が住む、未来につながる持続可能な町に近づけることができているのではないかなと思います。

次に、今後の課題についてのお尋ねでございます。今後の課題といたしましては、やはり先ほど申し上げました目標値を毎年度、安定して達成していけるのかという点でございます。さきに述べました2分野におきましても、まだ目標値を安定して達成できる状態ではございません。安定して達成できるよう点検しながら、継続的に進めていくことが大切だと思います。

次に、義務教育学校開校後の放課後子ども教室、夏休み、冬休み、春休み子ども教室の運営方針についての御質問でございます。令和5年度からの放課後子ども教室につきましては、従来どおりの時間帯で義務教育学校の多目的ホール、これを会場として実施することを考えております。サポーターさんなどのスタッフの人員につきましては、検討しているところでございます。また、夏休み、冬休み、春休みの子ども教室につきましては、現在の黒坂小学校多目的教室を利用して、根雨地区、黒坂地区に分かれての開催も視野に検討を進めております。長期休業中の開催日につきましては、現行のとおり運営していきたいと考えております。以上でございます。

○議長（小谷 博徳君） 9番、竹永明文議員。

○議員（9番 竹永 明文君） ただいま町長より答弁いただきました。少子化の中で、若者定住というのは、なかなかこれは全国的な課題であって、日野町に限定したものではありません。東京都から大阪、全国的に少子化ということで、若者定住で町を盛り上げていくっていうことは大変な課題だというふうに思います。その中で、本町は移住定住促進住宅整備費補助金、病児・病後児保育、町営住宅の払下げ、保育料、給食の無料化とか、祝い金とかという補助制度を設け、町長が先ほど言われたように、全体的には私は成果が上がっているというふうに私も認識しております。

その中で、具体的に2点について、もう一度成果についてお伺いしたいと思います。

1点目は移住定住促進住宅整備費補助金です。これは平成に入りましてから、国の補助事業でIターンの制度というのがありました。本町もそれに沿って、Iターンの補助金をつけながら努力をしてみましたが、なかなか成果が上がらない。その中で、平成27年に議会のほうから、Iターンだけではなくて、Uターン、地元の若者のほうが移住の定着率がいいんじゃないかと。ましてや若者、今住んでいただいている若年層にそういう補助金制度をつくったら、流出を防げるという議会からの提案で、これは全国に先駆けて、鳥取県で一番最初にこれは導入した補助金だと思います、日野町が。その成果を、数字も含めて、どのような成果があったのかということがもし答弁できたらお願いします。

○議長（小谷 博徳君） 埴田町長。

○町長（埴田 淳一君） 議員さんから、移住定住住宅の整備事業等のこれに係る成果という御質問でございます。その御質問の中で、Iターンばかりでなく、Uターンというものをしっかり視野に置いた、どういうんですか、取組をなさいますよということで、まさに本当にそうだと思います。不特定の方に、本当は縁もゆかりもない方にもどんどん来ていただきたいんですけども、現実やはり日野町をふるさととして捉えられる、そういう思い出とかきっかけがある方、そういった方が大きなターゲットになるってということで、最近ではUターン促進ということで、いろいろ取り組ませていただいております。

事業の成果につきましては、担当課長のほうから説明させたいと思います。

○議長（小谷 博徳君） 神崎企画政策課長。

○企画政策課長（神崎 猛君） 移住定住促進住宅整備費補助金の成果について御説明申し上げます。

令和2年度の実績が7件、令和3年度の実績は9件でございます。そのうち令和2年度につい

ては、若年世帯が3件、移住者の方3件、それから空き家の所有者が改修されたのが1件でございます。令和3年度のほうの内訳なんですけれども、若年世帯の方が5件、それから移住者の方2件、それから空き家の所有者の方が2件で、合計9件ということで、成果が上がっているというふうに認識しております。以上です。

○議長（小谷 博徳君） 9番、竹永明文議員。

○議員（9番 竹永 明文君） 今、町長と担当課長のほうから答弁いただきました。私もやはり日野町が全国に先駆けたこの制度というのは非常に有効だったというふうに思います。それなりにやはり成果が上がっております。子供でいいますと、私、一番最初、これを議会のほうでそういうことを提案したり、議員の皆さんと話をした中で、平成24年度に県外からUターンで帰った方が、日野町で生まれた人は7人だ、その人を含めて8人ということで、これからは子育ての環境っていうの一番心配しておられました。それで、今、そういう政策がもとで、徐々に成果が上がって、今年1年生上がった人が、当初そういう状態でしたけど、今11人が小学校へ入学したということで、それはUターン、Iターンがやっぱりある程度、実績があったというふうに思います。平成28年度から令和3年度までに日野町で生まれた子供さんが54名です。そのうち、54名以外にUターン、Iターンで9名ということで、6分の1以上増えてる、やっぱり成果があったということで、これは本当にいい制度ですので、これからもそういうことをアピールしながらやっていただきたいと思います。

先日、新聞に住宅支援制度、町民に出すということ、日野町をこれは参考にされたかどうかは分かりませんが、若桜町が今年度からそれを導入して、若者定住に補助金を町単独で出すと、日野町は先ほど言いましたように、平成27年度からそういうのを先駆けてやっていますので、もう少しその日野町のよさをアピールしながら、やっぱりやっていただきたいというふうに思います。

それでは、成果について、2点目ですけど、病児・病後児保育について再度お聞きしたいと思います。病児・病後児保育については、町単独で取組をしておりましたが、利用者が非常にゼロに近かったということで、令和2年度から反省を踏まえて、日野病院に業務委託をすることから、診察から利用までの手続の簡素化を図って、利用者が増えてるという、これ、成果が上がります。令和4年度は180人以上、何か利用されたというような報告を受けたように今、記憶しております。これはやっぱり小児科という、日野病院の小児科の先生の協力があって、やはりこれだけの成果を上げた。この小児科の先生は24時間体制ということで、朝早くても、夜中でも自分の携帯に電話していただいたら対応するというので、スムーズに病児・病後児保育の

ほうに子供さんを連れていけるということで、子育てに保護者は非常に安心感を持って仕事ができるという、この成果が上がってます。

そこで、先日の町長の報告の中で、日野病院の小児科について、3町が資金を出し合って、2人体制でやりたいというようなことを日野病院議会で方向を進めてるという報告を受けたように思いますが、それについては今現状、どのような方向に進んでいるのか、御答弁いただきたいと思えます。

○議長（小谷 博徳君） 埴田町長。

○町長（埴田 淳一君） 病児・病後児保育も含めて、日野病院の小児科常勤医さんの確保ということでの御質問だと思います。子育てにおいては、近くに小児科があるということはずごくどういんですか、安心感が高まる、そういったことだと思います。日野病院に小児科の常勤医さんがおられないときには、町内の方、米子ですね、そういうところに出かけないといけない。子供さんが病気になるのか、ちょっと体調が悪くなるのは、定期的じゃなくて、不定期、不確実なときにあるんで、非常に大変だったということで、日野病院に小児科医さんが常勤でおられるというので、すごく最初の年、たくさん受診していただいた、私はそのことについて、知事のほうにも報告させていただき、なおかつ、本当にどういんですか、地域の病院で、地域の、中山間で人口が減っている中で、要はトータルの患者数がどんどん減る中で、そういった地域にあっても、常勤の小児科医を置くということが住民の方にとって非常に大切ですので、いろいろな御支援をよろしく願いますっていうお願いをずっとしてるわけですけども、今々の状況でございませうけれども、議員さん御案内のように、小児科医さん、今お勤めの方、大分御高齢になっておられる、そういった中で、常勤の小児科医さんの確保にあって、病院と連携しながら、そして3町連携しながら、具体的には鳥大の医学部の小児科講座のほうにいろいろお話っていうか、お願いをしているところでございませう。いろいろ現在のような密な、どういんですか、条件をいろいろすり合わせたりして、今、調整を図ってるっていうような状況ですっていうことまでしかちょっと申せないんですけど、以上でございませう。

○議長（小谷 博徳君） 9番、竹永明文議員。

○議員（9番 竹永 明文君） 町長が今おっしゃいましたように、本当に子育ての、子供生まれて、5歳、小学校へ上がるまでは、要するにやっぱりそういう危険性が非常にあるわけですね。今、コロナ禍の中でも、コロナで休園したり、休校したりという中で、本当、小児科の必要性っていうのは、これは病院議会のほうで論議されることですけど、私があえて今お聞きしたのは、日野病院に病児・病後児保育事業を日野町は委託をしておりますので、今みたいな体制を維持していくの



が、やっぱり若者世代、子育て世代には非常に安心感があると思います。今の先生は24時間体制でやっていただくと、町長の今の話の中では高齢化で、だけど、年齢的には私まだ、もうそういう体制が取れる間はお願いして、本人がそれを受けていただくかは私、分かりませんが、今の状況を維持していくのが、私はできる限り、子育てに安心して、やっぱり若者世代世帯が定住していただける一つの要因だと思いますので、町長としても、そういう働きを、今後も本人を含めて、協力をしていただくように努力していただきたいなというふうに思います。

それでは、次、効果について、成果について、今の件についてはこれで終わります。あと、この成果についての回答ですが、町長のほうはここ、目標値を上げられて、今これを課題について御答弁いただきました。第2次きり創生戦略の中では、第1次の反省を踏まえて取り組んでいきたいということで、この反省点というのはどういう問題点、課題があったのか、具体的に答弁をお願いしたいと思います。

○議長（小谷 博徳君） 埴田町長。

○町長（埴田 淳一君） ちょっと若者、子供、いわゆるどういうんですか、若年世帯の移住者のKPIの数値の関係ということでございますか。いろいろな施策を組ませていただいて、金銭的っていうか、経済的な支援はかなり充実してきてる。ただ、それだけでは、それはもうほかの自治体もほとんど一緒になってきてますので、やはり日野町の魅力とか、日野町の制度っていうか、支援制度ですね、そういったものをいかにキャッチしてもらおうか。日野町にまず来てもらうとか、日野町を思い出してもらおう、そういうことがやっぱり大切なんだろうなって、要は経済的支援が全部整って、全部とは言いませんけれども、ありますよって言っても、最初に申しましたように、極端に言ったら、どの町もほとんどそういう競争もしておりますので、やはり情報をしっかり届けるっていうこと、そして何か魅力、帰ってきたい、訪れてみたい、そういうこと、帰ってみたいっていうのには、今仕掛けをしてる、例えばふるさと教育だったり、訪れてみたいっていうことになると、関係人口の密度を高めていくとか、そういうような、総合的にやっていかないといけないなっていうのが、もちろん総合的にやっておりますけど、さらに総合的にやっていく必要があるかなっていうのが見解でございます。以上です。

○議長（小谷 博徳君） 9番、竹永明文議員。

○議員（9番 竹永 明文君） 若者定住、子供が住む未来づくりということで、町長が今、答弁されました。なかなかこれはこういう成果っていうか、そういうのもなかなか難しいですし、どういう課題があるかっていうこともなかなかつかみにくいところだろうと思います。ただ、私が感じるのは、町としてIターン者とか県外にアピール不足というのを私は一番感じてます。

私がいつも持論で言いますけど、日野町は人口3,000人いませんけど、全国の過疎地域の中で、生活するには非常に便利のいいところです。例えば、病院もありますし、金融機関も3つあります。それから福祉施設もある、そして、今の支援制度、それからコンビニもあって、本当生活するのは、町内で、国道に出るのに5分以上かかるとこないんですよ、JRもあると。そういうのも含めて、やっぱりその中で、こういう住みやすい町ですよと、日野町は。コンパクトがありますが。その中でこういう補助制度がありますというようなことを含めて、やっぱりアピールすれば、今一層、私はそれなりの成果が上がるというふうに思いますが、その点について、町長、どう思われますか。

○議長（小谷 博徳君） 埴田町長。

○町長（埴田 淳一君） 議員さんの御意見、もっともだと思います。私もどういふんですか、アピールする部分で、要はどういふんですかね、我々の価値観とまた違う価値観、都会の価値観のようなものに触れるような、そういう琴線に触れるようなPRもしないといけないのかなと思ってます。私はよく、よくではないんですけど、県外から来られた、初めて鳥取に来られた、赴任してこられた方っていうのが御挨拶に来られたりするときに、日野町は米子空港まで2時間弱で行けます、鳥取空港も行けます、2時間弱、出雲空港もそのくらいで行けます、岡山空港もそのくらいで行けます、広島空港はもうちょっとかかるけれども、非常に便利のいいとこなんですよと。要は何を言いたいかって、海外を視野に置いて、いろんなところに、国外との、世界とのつながりを持つ空港にもいろんな選択が、チョイスができる、そういう便利な地域ですよっていうのをちょっとよく伝えております。PRとか情報提供は必要だと思います。

○議長（小谷 博徳君） 9番、竹永明文議員。

○議員（9番 竹永 明文君） PR不足っていうのは、執行部の皆さんもある程度感じておられるというような答弁、町長は今、答弁で、世界も視野に入れたようなPRをとというようなこと、非常にこのPRっていうのは私は大切だと思うんです。ただ補助金だけがこういうのがありますよと、町内に住んどる人もこの補助金をなかなか活用するまでに時間がかかっている。それは、例えば住宅支援金なんかは業者の皆さんがこういう補助制度がありますからっていう勧められた例と、議会の皆さんが議会でこういう制度ができたということで、それで利用する人が結構あったと思うんですよ。やはりこういういい制度、住みやすいまちづくりというのは、町長が今言ったように、これからも全力でアピールしながら若者定住に向かっていっていただきたいと思います。

それでは、次、2番目の義務教育学校開校後の放課後子ども教室ということで質問をいたしました。その中で、答弁では従来どおりの時間帯でやりますということをお答えいただきました。

私は、今回一般質問するのに、資料提供ということで、現在の運用状況がどうなってるかということはある程度把握してはおりますが、再度、今現在の運営状況をお聞かせください。

○議長（小谷 博徳君） 埴田町長。

○町長（埴田 淳一君） 義務教育学校開校後の子ども教室の関係で、現在の子ども教室の運営状況はどうかという御質問でございます。

具体でございますので、教育課長のほうから答えさせます。

○議長（小谷 博徳君） 遠藤教育課長。

○教育課長（遠藤 律子君） 現在の子ども教室の運営状況ということでお答えいたします。

現在、放課後子ども教室におきましては、黒坂小学校、根雨小学校、それぞれの校舎、多目的教室におきまして実施しております。時間は放課後、大体15時頃から最長で18時までということで運営しております。実際、今年度の希望者数としては、黒坂小学校が23名、根雨小学校が19名という状況でございます。

夏休み子ども教室につきましては、時間が午前8時から午後5時30分までということで、夏休み期間ということになりますので、今年度につきましては7月の21日から8月の24日までということにしております。そのうち土日、お盆、8月15日の開催はないという状況でございます。冬休みの子ども教室につきましても、同じく午前8時から午後5時30分までといたしまして、12月26日から翌年の1月6日までの6日間ということで、土日と12月29日から1月3日までの開催はいたしておりません。春休み子ども教室につきましても、開催時間は午前8時から午後5時30分まで、開催日は今年度につきましては、3月27日から3月31日までの5日間ということで、運営状況は以上でございます。

○議長（小谷 博徳君） 9番、竹永明文議員。

○議員（9番 竹永 明文君） 課長から今説明があつて、基本的には放課後子ども教室は土日、祭日を除いた放課後をやるというような説明でした。これを3月の議会中の全協で私はちょっと提案させていただきました。これは保育所の保護者の皆さんの声だったんですけど、今の説明で聞きますと、その当時、保育所を卒園して、4月1日から入学式まではそういう放課後クラブ開催してないと。それで、保護者が当然休んで育児をしないといけないということで、これは改善していただきたいという私は意見を言わせていただきました。そのときに町長のお答えは、そういう空白期間があるというのは、初めて今、認識しましたと、これは取り組みたいという御答弁いただきました。その後、今の状況は来年度に向けてということで、それが気になったもので、今回、一般質問したんですけど、この中では、やっぱり私は保育所の園児だけかと思ったら、小

学生も4月1日から入学式までは開催してないと。よその町村ではそれをちゃんとやっておられるところがありますが、その指摘について、町長は検討したいというふうに言っておられるのなら、ぜひこれはこの空白期間も実施してほしいというふうに思いますが、その答弁をお願いします。

○議長（小谷 博徳君） 埴田町長。

○町長（埴田 淳一君） 確かに全協のときに議員さんからそういうお話を伺ったと思います。伺いました。そういう空白期間があるんかっていうのをそのときに初めて認識しました。その検討について、教育委員会のほうで検討させました。いろいろな課題っていうか、どういうんですか、いろんなことを検討してると思いますんで、ちょっと検討状況を補足して説明させますので、よろしくをお願いします。

○議長（小谷 博徳君） 生田教育長。

○教育長（生田 求君） 春休みの子ども教室の開催についてお答えいたします。子ども教室の開催に当たっては、サポーターが学校と連携して、安全に責任を持って運営できることが必要です。4月は児童や教職員の異動もあり、受け入れる体制が十分に整うのか、慎重に判断しなくてはなりません。また、卒園児については、情報を把握していない段階で子ども教室に受け入れることは適切ではないと、これまでは判断しておりました。議員さんが言われるように、教育委員会でも他町の様子のほうの情報を収集しております。どのような形で、どのような手順を踏んで実施をされているのかという情報のほうも収集し、教育委員会のほうでも検討しております。4月1日から入学式、あるいは始業式まで大体、土日を除くと4日間ぐらいだと思います。今後も、保護者の方のニーズであるとか、ただ、受け入れるサポーターの方の御意見もお聞きしなければなりません。第一には、子供たちを安全に責任を持って受け入れることができるかどうかというようなことも考えながら現在、検討しているところであります。以上です。

○議長（小谷 博徳君） 9番、竹永明文議員。

○議員（9番 竹永 明文君） 今、教育長さんの説明で、検討したいというふうな、子供さんが保育所から1年生に上がる時、どういう評価いうか、人間か分からないからというような意見、これは学校じゃありませんから、子ども教室はあくまで学校が終わってから家庭に帰っても保護者がいないと、その間に預かるというのが目的なんですよ、これ。よその町でやってます。ましてや学校の教職員と協力して、学校は春休みだろうが冬休みだろうが、月曜日から金曜日までは学校の先生もいらっしゃるわけですよ。休み中に学校の先生休むっていうことはないわけですよ。だから、本当に町長が言われる子育ての環境づくりということを前面に出して、Uターン、Iタ

ーンをという子育てを目標に上げるんだったら、そういうことはいち早くやっぱり対応しないといけないと思います。

今、コロナ禍の中で、学校が休校になったり、休園になったりして、保護者が休んでいってま  
す。この保護者の中には、約15%が児童扶養手当を頂いてる保護者がいるわけですよ。という  
ことは、パートとかそういうことで働いてるんですよね。そういうことで休まないといけない。  
私、この前、運動会のおきも感じました。土曜日学校行事、運動会すれば、月曜日は休校で、子  
ども教室も受け入れてもらえないんですよ。ということは、土曜日も休んで、月曜日も休まない  
といけない、これでは子育て世帯に対し、町長の言われる子育てとは私はかけ離れてると思いま  
すので、これはいろんな問題があっても早急に対応するように、町長やってください。いい回答  
があれば、これで私は一般質問を終わりたいと思います。

○議長（小谷 博徳君） 埴田町長。

○町長（埴田 淳一君） いい回答があればということですけども、御期待に沿うかどうかち  
よっと分かんないんですけど、先ほど教育長が申しましたけども、現在、そういう検討中である、  
特にニーズとかやっぱり人材の確保、そういったことをどうやっていこうか、どういうふう  
に考  
えられるか、分析をして検討してるってことですので、検討させていただきたいと思いま  
す。

○議長（小谷 博徳君） 9番、竹永明文議員。

○議員（9番 竹永 明文君） それでは、なかなか実施するというような御答弁いただけないの  
で残念であります。私が義務教育学校開校後って言ったのは、今現在、黒坂、根雨と両方やっ  
てるわけですよ。その人材がいるわけです。それで、今度、義務教育学校になったときに、放課  
後クラブ、黒坂と根雨とを分ける私は必要はないと思うんです。だから、例えば根雨でやる、夏  
休み、冬休みについてはいろんな問題があると思います。ただ、人材確保もできるじゃないです  
か、そういうことを考えて。もう時間もありません、来ますので、これで終わりますが、今、私  
が言った放課後子ども教室については、子育て世代が安心して仕事ができるような環境をつくっ  
ていただくことを確信して、私は一般質問を終わります。

○議長（小谷 博徳君） 9番、竹永明文議員の一般質問が終わりました。

---

○議長（小谷 博徳君） お諮りをいたします。本日の会議はこれで散会といたしたいと思いま  
す。  
これに異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（小谷 博徳君） 異議なしと認めます。よって、本日は、これで散会することに決定をい

たしました。

会議の再開は、6月16日午前10時といたします。御協力ありがとうございました。

午前11時19分散会

---